

2011 年度事業報告

<2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日>

I. 概要

ESD をとりまく環境

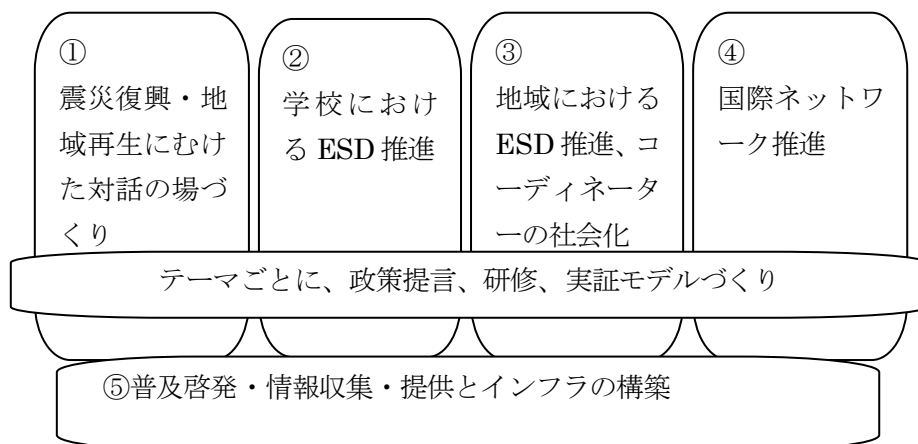
2011 年度は、2014 年の ESD の 10 年最終年にむけた具体的な動きが始まった年といえる。政府による ESD の 10 年実施計画の見直しは 6 月に発表され、重点施策に学校での取り組みの推進が明記されるとともに、ESD の「見える化」「つながる化」への取り組みが強調された。また、文部科学省は最終年会合の開催地を公募し、7 自治体の応募から愛知県・名古屋市と岡山市が採択された。ユネスコ本部では International Steering Group が設置され、2014 年の最終年会合の内容についての議論が始まった。このような背景のもと、民間側では「世界の祭典推進フォーラム」が当会を含む ESD 推進機関とともに、最終年にどのような成果を目指し、どのような会議やイベントを行うのかについての議論を展開している。

2014 年目標と活動方針

ESD-J は、第三期（2009-2011）の最後年、「2014 年に具体的な成果を出す」ことを念頭に、「2014 年目標と行動計画」の中で ESD-J が主体的に取り組む部分を明確化し、1 月に「2014 年目標と活動方針（最終案）」を発表した。また、2014 年に向け ESD-J が何を目指しているのかを伝え、共に活動する仲間を増やすためのツールとして、「国連 ESD の 10 年ラストスパートブック」を制作した。この取り組みには、9 社の協賛と、広告代理店による制作協力を得ることができた。

2011 年度の具体的な成果など

具体的な活動では、「2014 年目標と活動方針」の枠組みである「学校における ESD 推進」「地域における ESD の推進とコーディネーターの社会化」「広報・普及とインフラの構築」に加え、ESD-J 設立当初より継続的に取り組んでいる国際ネットワークの形成と、東日本大震災を受けての ESD の役割探求という課題をふまえ、以下の 5 本柱で事業計画を組み立て、取り組んだ。



主な成果は以下のとおり。

① 震災復興・地域再生にむけた対話の場づくり

6月の全国ミーティングを仙台で開催、150人の参加を得た。震災後の混乱の中、「現地の声が聞きたい」「ESDができることを考えたい」という会員のニーズに応えることができた。その中では、非被災地での震災体験や被災地への関心・想いを風化させることなく、震災からの学びを各地の持続可能な地域づくりに生かしていく学びの場をつくることがESDの役割として確認された。

また、この取り組みをサポートするツールとして、震災から学び対話を生み出すESDテキストブック『未来をつくるBOOK』を発行、書店販売を実現するとともに、モニター校に無償配布し今後の展開につなげた。

③ 地域におけるESD推進、コーディネーターの育成と社会化

「ESD×生物多様性」プロジェクトのこれまでの成果を踏まえ、『わかる！ESDテキストブック3・生物多様性を大切にしたい地域づくりをはじめよう』を発行した。

また、環境省関東地方環境事務所の「関東ESD学びあいフォーラム」を受託し、関東1都9県の多様な立場のコーディネーターとともに、

- ・ESDのビジョンを共有すること
- ・コーディネーター同士が学びあい、スキルアップや社会的プレゼンスの向上に取り組むことの必要性を共有することができ、今後も関わっていききたいという意思を生み出すことができた。

④ 国際ネットワーク推進

リオ+20に向けたマルチステークホルダーによる国内準備委員会に参加し、国内準備委員会による「成果文書へのインプット」にESDの重要性、2014年以降の行動計画の必要性等を盛り込むことができた。

また、バンコクにてアジアのNGOを中心とする国際ワークショップを開催し、リオ+20に向けたアピールと、アジアネットワークづくりに向けたロードマップを作成した。

⑤ ESDに取り組む組織や人、ESDを推進する組織につながるインフラの構築

多様なステークホルダーによるESD推進のためのプラットフォーム「+ESD（プラス・イー・エス・ディー）プロジェクト」の事務局を担い、さまざまな活動の登録を促進するとともに、多様な主体の連携によるESD推進の課題と必要とされる施策に関する調査を行った。

組織体制について

2011年は春から夏にかけて事務局体制が大幅に変わり、8月以降はフルタイム職員が3名に、1月には2名（村上、長澤）になった。国際プロジェクトは秋以降プロジェクト契約の形で継続して野口が担当、その他、理事、非常勤、インターンに支えられての運営となった。

2014年に向けた体制強化を目指し、Panasonic サポートファンドの助成を得、組織診断事業に着手、ESD分野におけるポジショニング分析や、SWOT分析を経て、事務局体制の強化、自主財源を生み出すプロジェクトの立ち上げ、2014年に向け理事や会員のパワーを生かした事業の組み立てなどについて議論を深めた。地域担当理事によるESD-Jネットワークの強化は引き続きの懸案となっている。

II 事業活動

1. 震災復興・地域再生支援にむけた対話の場づくり

【2011年度の重点項目】

- ・震災を機に高まっている現在のライフスタイルや社会のあり方への問題意識の変化を捉え、各地・各主体の中に対話の場を作りながら、被災地の復興・再生と非被災地の社会の再構築につなげていく。

【事業内容】

1) ESD全国ミーティングの開催

震災復興における「ESD×生物多様性」を含んだ取り組みを紹介し、震災復興やその他の地域づくりに生かすことを目的とした全国ミーティングを仙台で開催した。（一部、地球環境基金助成事業）

<実施概要>

- ・日時：2011年6月25日（土）～26日（日）
- ・場所：宮城教育大学（仙台市）
- ・主催：ESD-J 共催：仙台広域圏ESD・RCE運営委員会 後援：宮城教育大学
- ・内容：北海道から沖縄まで全国から約150人の参加者が集まり、ESDを通してつながりのある被災地の方たちから現状を報告いただき、ESDのネットワークとしてできることを2日間にわたって議論した。

2) 被災地の復興・再生と持続可能な社会づくりをつなぐ学び支援事業

非被災地では、震災を機に高まっている現在のライフスタイルや社会のあり方への問題意識を、個人レベルから地域レベルへ広げ、行動につなげていく場として「ESDカフェ」やチャリティコンサート、学習会などを理事や会員が主体となって開催した。その情報は、会員メーリングリスト等で共有することができた。（理事・会員連携事業）

また、被災地でのESD的な取り組み（地域の自然や資源を活用した、住民参加の地域再生など）を継続的に取材し、「ESDレポート」、「ESD×生物多様性しんぶん」で紹介した。冬以降に開催したいと考えていた、ESD関係者による、被災地と非被災地での学びの交流事業は、助成金が獲得できなかったこともあり、実施ができなかった。

3) 「未来をつくるBOOK」制作・配布

震災を機に見えてきたさまざまな社会の仕組みや矛盾などを題材に、大人と子どもが対話して考えるESDツールとして、震災後の出来事を踏まえたFACTBOOKの検討から始め、『未来をつくるBOOK』として出版・配布した。（日能研協賛事業）

<実施概要>

- ・東日本大震災をふりかえり、今を見つめ、対話する『未来をつくるBOOK』発行（A4判、56ページ、表紙4色、中面2色）
- ・発行部数：贈呈用3000部
販売用2000部（みくに出版発売）
- ・贈呈プログラム：12月から、小中学校を対象に、1クラス分（40冊を上限）を贈呈するプログラムを実施。2月には対象を高校まで広げた。

2. 学校におけるESD推進

【2011年度の重点項目】

- ・これまで教育委員会との連携によって取り組んできた、学校と地域をつなぐESD研修の成果を、各地に展開する

【事業内容】

1) 学校と地域の連携によるESD推進モデルづくり

学校や教育委員会、大学等に、学校と地域が連携したESD実践のノウハウなどを取り入れたESD普及のための研究会や研修を地域担当理事が働きかけ、実施した。ユネスコパートナーシップ事業については、2011年度はECOMが受託し、稲城市で教員研修を実施。また、東京都の教育支援コーディネーターによるESD研修も実施した。（理事・会員連携事業）

2) 学校におけるESD推進分野における政策提言の働きかけ

文部科学省、高等教育機関、自治体やNPO/NGO等に向けた提言実現の働きかけと、先進的な取り組みの収集・発信を行う計画であったが、政策提言の方針、そのための情報収集、研究会の設置など、具体的なアクションプランと体制作りができておらず、未実施となった。（理事・会員連携事業）

3. 地域におけるESD推進とコーディネーターの社会化推進

【2011年度の重点項目】

- ・ESD×生物多様性プロジェクトの集大成として、生物多様性を大切にしたい地域づくりのためのESDアプローチを広げていくハンドブックを制作する。
- ・多様な分野のコーディネーター育成団体とともに、ESDの視点の導入に関する研究・検討を進める。

【事業内容】

1) 「ESD×生物多様性」プロジェクト

生物多様性を大切にしたい持続可能な地域づくりの実践と人づくり（=ESD）を地域で広げ、深め、効果的なアプローチ方法やノウハウをとりまとめ、地域の人づくりのためのハンドブックを発行した。2012年度は販売版を発行する。

また、愛媛県とべ動物園、愛知県岡崎市立新香山中学校、千葉県鴨川市二戸棚田の3カ所で、モデル事業を実施した。さらに、上記モデル事業のプロセスや、震災復興における「ESD×生物多様性」の取り組みを紹介する「ESD×生物多様性しんぶん」を発行した。（地球環境基金助成事業）

<発行物>

- ・ESDがわかる！テキストブック3『生物多様性を大切にしたい地域づくりを始めよう』（B5判、64ページ、表紙4色、中面2色）
発行部数： 配布版800冊（地球環境基金助成）
- ・「ESD×生物多様性しんぶん」（年3回、各6,000部）

2) ESD コーディネーター育成のモデル研修プランの作成・実施

関東地方1都9県の様々な立場のコーディネーターが集い、互いに知り合い、課題を議論し、ESDの価値を共有する「関東ESD学びあいフォーラム」を実施した。（環境省関東地方環境事務所請負事業）

一方、当初予定していた各地への研修開催の働きかけは着手できなかった。（理事・会員連携事業）

<実施概要>

- ・関東一円の多様な分野のコーディネーターのヒアリング調査（10名）
- ・「ESDコーディネーターのあり方検討会」の開催（10名） 2012年1月23日（月）
- ・「関東ESD学びあいフォーラム」の開催（参加者：50名） 2012年2月27日（月）

3) 学習コーディネーターの社会化に向けた政策提言の働きかけ

情報収集は、上記2)の事業を通して実施することができたが、「ESD関東学びあいフォーラム」の場以外での情報発信ができておらず、政策提言全般が未着手となっている。（理事・会員連携事業）

4. 国際ネットワーク推進

【2011年度の重点項目】

国際的な動きを国内へ、日本の動きを国際社会へ、受発信する機能を高めるための体制作りに取り組む。

【事業内容】

1) ESDに関する内外の重要情報の収集・提供とそのための体制の強化

リオ+20、ESDの10年最終年會合に向けたESD-J活動の国際的発信、国内関係機関との情報・意見交換はある程度進展した。また、懸案であった国際チームをとりあえず発足させることができた。今後、国際チームの拡充に向けた検討を進めるものである。（理事・会員連携事業）

2) アジアESDネットワーク再構築に向けた実践

地球環境基金のリオ+20特別枠助成活動の一環として、アジアのESD推進のためのNGOのネットワーク構築に向けたプロジェクトが採択された。

一方、2009~2010年度にかけて実施したキャタピラ財団によるアジアのNGOによるESD推進プロジェクトの後継プロジェクトを提案したが、採択されなかった。また、トヨタ財団のアジアの隣人プロジェクトとして「アジアにおけるESD推進に向けた市民社会のネットワーク形成」を、日本財団ROADプロジェクトとして「東北地方太平洋沖地震 災害にかかる支援活動助成」を提案したが、いずれも不採択であった。

3) RIO+20に向けた準備

リオ+20国内準備委員会（以下「国内準備委員会」という。）委員に及び国内準備委員会サポートグループ會合メンバーにESD-J理事が就任し、リオ+20成果文書のゼロドラフトへの

「国内準備委員会からのインプット」へのESD分野からの貢献を行った。

<リオ+20国内準備委員会>

- ・7月13日 国内準備委員会設立・第1回会合参加
- ・8月23日 国内準備委員会第2回会合参加
- ・9月14日 国内準備委員会第3回会合参加
- ・10月11日 国内準備委員会第4回会合参加
- ・2月1日 国内準備委員会第5回会合参加

<リオ+20国内準備委員会ワークショップ>

- ・9月1日 第1回ワークショップ
- ・10月2日 第2回ワークショップ

<国内準備委員会サポートグループ会合>

- ・随時参加

また、アジアのNGOからのリオ+20に向けたメッセージを作成、併せて2014年までのアジアのESD NGOネットワーク構築に向けたロードマップを作成した。

<実施概要>

- ・リオ+20においてアピールしたい事項に関するアンケート調査の実施（1～2月）
- ・アジアのESDNGOネットワークバンコクワークショップ～リオ+20およびESDの10年最終年（2014年）に向けた戦略会議の開催

日時：2012年3月10～11日

主催：ESD-J 共催：UNEP

5. 普及啓発、情報収集・提供および出版

【2011年度の重点項目】

- ・+ESDプロジェクトを、官民連携のESD推進の基盤システムとして活性化する
- ・ESD-Jの2014年に向けたこれまでの活動と成果を分かりやすい形に取りまとめ、発信する
- ・ツイッターや動画配信など新たなメディアツールの可能性を探る

【事業内容】

1) ESD推進のための協働プロジェクト「+ESDプロジェクト」の実施

+ESDプロジェクトへの参加登録件数を増やし、多様なESD活動を可視化するとともに、関係省庁のESD推進施策を一元化したページづくりや、ESD活動やESD関連イベントに関する情報を当該プロジェクトシステムのメール機能やESD-Jメールマガジン等で発行することで、ESDの活性化につなげた。また、「+ESDプロジェクト全国学びあいフォーラム2011」を開催するとともに、地域での交流・学びあいフォーラムの開催を支援した。さらに、多様な主体の連携によるESD推進における課題と必要とされる施策に関する調査を行った。（環境省請負事業）

2) 活動成果普及リーフレットの発行

ESD-Jの2014年目標および重点アクションプランを発信し、広くESDおよびESD-Jへの参加を呼びかける新リーフレットを制作した。（企業協賛事業）

<ESD-J新リーフレットの概要>

「国連 ESD の 10 年ラストスパートブック」

- ・ B5 判、16 ページ、フルカラーの冊子、5000 部を印刷（2014 年までに 20,000 部を予定）
- ・ 博報堂が CSR として制作チームを編成、制作を担っていただいた。
- ・ 企業協賛は、9 社 176 万円（日能研 76 万円ほか）が集まった。

3) 講師派遣

ESD に関連する各種講演や研修等の依頼に応じて、計 12 件の講師派遣を受託または仲介し、ネットワークから適切な講師を派遣した。また、ESD-J 理事が、各々の所属団体または個人として直接実施した講演・研修等は 117 件となっている。

	市民向け イベント	市民向け 講座	学生向け 講座	教員向け 研修	行政職員 向け研修	企業向け 講座	海外参加者 向け講座
ESD-J 受託等	5	2	3	0	1	0	1
理事直接実施	18	45	25	48	5	3	6

4) 機関誌「ESD レポート」の発行

2011 年度事業計画の新しい柱である「震災復興・地域再生支援にむけた対話の場づくり」に沿った情報の発信ができた。その一方で、目標とした年 4 回の発行が達成できず、3 回の発行に留まるとともに、2014 年に向けた内容について十分な情報発信ができなかった。

5) 各種メディア（ウェブ、メールマガジン等）を通じた情報発信

従来のメディアだけではなく、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、書籍の市販など、ESD の広報普及に関するツールを拡大することができ、ESD の理解と普及を促進した。特に電子メディアならではの時機に応じた「震災」に関する情報発信をある程度実施することができた。その一方で、ウェブサイトの記事更新やメールマガジン発行数は、目標とした情報発信量を大きく下回った。

6. その他

【2011 年度の重点項目】

- ・ 2014 年目標の一層の明確化と、その実現に向けた戦略を明らかにするための組織診断を行い、2014 年までのロードマップを描く。

【事業内容】

1) 組織基盤強化事業

外部専門家の協力のもとで、ESD をとりまくポジショニングマップの作成や、組織の SWOT 分析などの組織診断に取り組んだ。またその結果を踏まえ、2010 年度に発表した「ESD-J2014 年目標と活動計画」ドラフトをさらに絞り込み、2012 年 2 月に活動方針の最終案を公表した。また、「2014 年目標と活動方針」最終案を会員に示したうえで、理事選挙を行い、2014 年までの執行体制の基盤づくりに取り組んだ。（Panasonic NPO サポート ファンド 助成）

Ⅲ. 会議等

<総会>

通常総会	6月25日(土)	宮城教育大学
臨時総会	1月14日(土)	環境パートナーシップオフィス会議室

<理事会>

第1回理事会	5月14日(土)	JICA 地球ひろば
第2回理事会	12月10日(土)	立教大学
第3回理事会	1月14日(土)	環境パートナーシップオフィス会議室
第4回理事会	3月20日(火)	環境パートナーシップオフィス会議室

<理事懇談会>

第1回	4月3日(日)	ESD-J 会議室
第2回	5月14日(土)	JICA 地球ひろば
第3回	7月9日(土)	立教大学
第4回	9月17日(土)	名古屋市内
第5回	11月6日(日)	ESD-J 会議室
第6回	1月8-9日(日・月)	ESD-J 会議室

Ⅳ. 会員・理事・事務局等 (2012年3月末現在)

<会員> ※()内は2011年3月末の数

団体正会員	87団体(83団体)	個人正会員	115名(117名)
団体準会員	15団体(15団体)	個人準会員	175名(184名)
賛助会員	8団体(6団体)		
特別賛助会員	1団体		
連携交流団体	5団体(5団体)		

<理事>

代表理事	重 政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大島順子、小金澤孝昭、櫛田敏宏、杵本育生、鈴木克徳、竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森良、山下邦明、吉澤卓

*役割

震災復興・地域再生支援	主な担当理事：小金澤孝昭、森良、吉澤卓、重政子
学校におけるESD推進	主な担当理事：山下邦明、櫛田敏宏、鈴木克徳、
地域におけるESD推進および コーディネーターの社会化	主な担当理事：森良、池田満之、大島順子、三隅佳子、 竹内よし子、櫛田敏宏、池田誠
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳、山下邦明

普及啓発・情報収集・提供

主な担当理事：吉澤卓、杵本育生、池田誠

地域担当理事：【北海道】池田誠

【東北】小金澤孝昭

【関東】森良

【北陸】鈴木克徳

【東海】櫛田敏宏

【近畿】杵本育生

【中国】池田満之

【四国】竹内よし子

【九州】三隅佳子、山下邦明

【沖縄】大島順子

組織運営理事

重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

<監事>

浅見哲、吉岡睦子

<顧問>

阿部治、池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル

<事務局>

事務局長、理事　　・・・・村上千里

スタッフ（常勤）　　・・・・長澤正嘉、村田幸子（1月まで）、野口扶美子（8月まで）

（非常勤）　　・・・・小川理恵、中山薫（2月から）

契約スタッフ　　・・・・野口扶美子（9月から）、吉澤卓